

令和7年度 第4回 五ヶ丘地区教育環境検討協議会 次第

日時 令和8年1月18日(日)

午後3時～4時

場所 益富交流館 大会議室

	頁
1 前回会議録の承認	
2 協議事項	
(1)「五ヶ丘の新しい学校を語るワークショップ」の内容について	1
3 次年度の協議会委員の選任について	3
4 今後の協議会日程(予定)	
第1回 WS 令和8年3月7日(土) 午後4時～6時	

次年度以降のワークショップのスケジュール(予定)

第2回 WS 令和8年5月

第3回 WS 令和8年6月

第4回 WS 令和8年7月

第5回 WS 令和8年8月

第6回 WS 令和8年9月

協議会 上記WS終了後に実施を予定

※日程の詳細は、次年度の委員選任依頼の案内において、予定日等をお示しします。

「五ヶ丘の新しい学校を語るワークショップ」の内容について

1 ワークショップの目的

- (1) 住民主体の話し合いにより「不安や疑問の解消」と「より良い学校のイメージの共有」を図り、学校再編に対する納得感を高めるため。
- (2) 児童数の減少を踏まえて、「学校と子ども」を中心に教育環境について議論し、市が「学校再編の方向性」の検討に活用するため。

2 会場等の基本事項

- (1) 会場 益富交流館多目的ホール（又は両小学校体育館のいずれか）
 - (2) グループ人数と規模
 - 6名 × 8グループ 計48名（小・中学生なしの場合40名）
 - 協議会委員 12名（各グループ1～2名）※会長・副会長は進行のため除く
 - 一般参加者 28名（各グループ3～4名）
 - 小・中学生 8名（各グループ1名）※一部テーマ
- ※一般参加者は、できるだけ多くの参加とするため、各回で変更（希望の回を聞き、調整）
 ※託児あり（ファミリー・サービス・クラブ） 事前申込 保険料 500 円利用者自己負担
 ※交流館駐車場は、第2駐車場（南側）も開放

3 テーマ・内容等

- (1) ワークショップ全体のテーマ 「五ヶ丘の新しい学校を語るワークショップ」
- (2) 各回のテーマ設定

協議会でのグループワークのまとめを基本として、大きく2つで分類する考え方により、順番やテーマ名を調整しています。

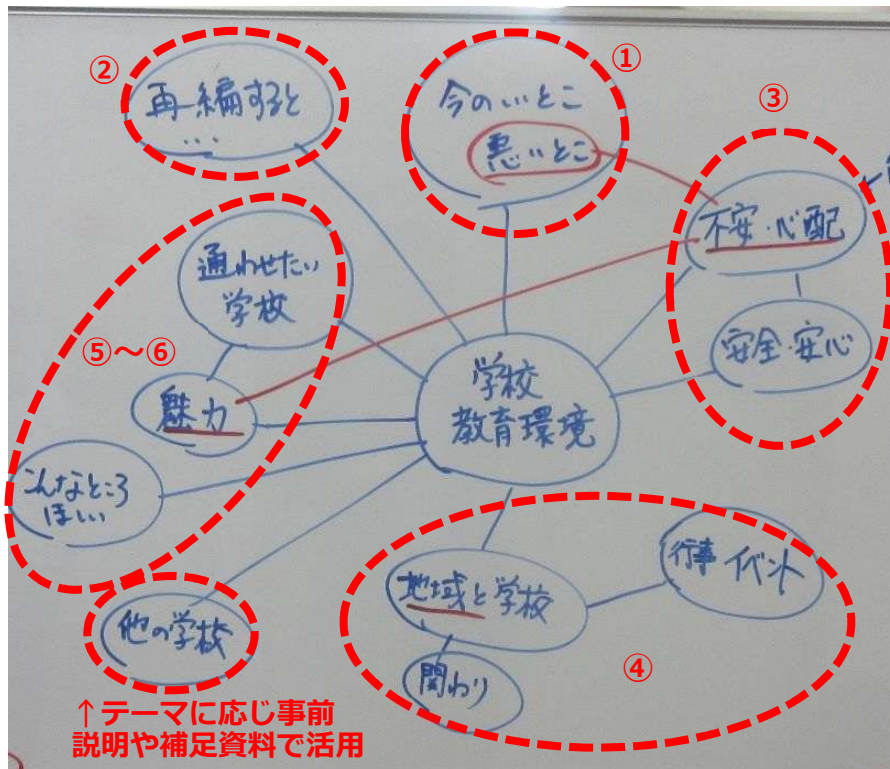
A：学校再編の納得感を高めるためのテーマ ⇒ 2回

B：市が策定する学校再編計画案に活用するためのテーマ ⇒ 4回

分類	テーマ名	考え方・補足
B	①両小学校の長所・特徴・違い	・引き継ぐべき伝統や良い取組を再発見する
A	②小規模化（少人数）の影響 ～人数が多いとできること～	・現在の児童数を前提にせず、将来を見越した対話ができるよう、事前説明等に留意
A	③学校再編への不安、心配	・可能な範囲で学校再編計画に活用し、再編の納得感の向上につなげる
B	④学校と地域のつながり	・新しい学校で地域と取り組むタネを植える
B	⑤子どもたちが「行きたい」「学びたい」 学校①～子ども目線でどんな活動・学び・遊びがしたい～	・「何が・どんな場所がほしいか（モノ起点）」ではなく、その理由である「何をしたいか・してほしいか（ヒト・コト起点）」で話し合う
B	⑥子どもたちが「行きたい」「学びたい」 学校②～大人目線でどんな風に活動・学び・遊びを支えたい？～	※そこから必要な「モノ」を市が検討

★小（中）学生の参加を予定する回：③⑤

(参考) グループワークのまとめ



4 第1回ワークショップの開催について

(1) 日時 3月7日(土) 午後4時～6時

(2) 会場 益富交流館多目的ホール

(3) プログラム

司会【協議会 寺崎副会長】

1. 主催あいさつ【協議会 鈴木会長：5分】

2. 説明「豊田市の教育のめざす姿と五ヶ丘での検討の経緯」【教育政策課：10分】

- ・児童数の状況
- ・めざすべき教育環境と学校のすがた
- ・五ヶ丘地区における検討の経緯

3. グループワーク(ふりかえり含む)【ファシリテーター：100分】

テーマ① 両小学校の長所・特徴・違い

4. 事務連絡

5. 閉会

(4) 申込等

- ・一般参加者は2月初旬にかわら版を配布し周知
- ・電話、メール、ファックス、WEBにより市教育委員会へ申込み

※小・中学生の参加は学校に案内を配布して周知。保護者同意の上、QRコードからWEB上で申込みとし、事前質問へ回答してもらう。また、小学生は保護者の参加も条件とする

※ワークショップ当日の運営資料は、でき次第、事前に各委員にお送りします

次年度の協議会委員の選任について

1 選任方法

以下「2 委員選任の考え方」に基づき、各団体から選出していただくようお願いします。
※別途、市教育委員会から選任依頼を送付します

2 委員選任の考え方（来年度の委員に期待する役割）

- (1) 子どもたちの教育環境について、親身になって検討できる方
- (2) 学校における現状の課題だけでなく、将来待ち受ける状況や発生が予想される課題に目を向けて検討できる方
- (3) 学校再編のメリット・デメリットの両面について考え、要否について建設的に意見ができる方
- (4) 「子どもと学校」を議論の中心としながら、「大人がどう支えるか(地域で子どもを育てる)」についても考えることができる方

3 団体ごとによる選出方法の例

- (1) P T A ・子ども会等

例 1：現委員の継続

（子どもが全員中学校に進学する場合は、選出不可）

例 2：新役員体制の中から選出する

例 3：学校再編の実現時期を踏まえ、4年生以下の役員の中から選出する

- (2) 自治区

新区長から選出 又は 現委員の継続

いずれも、協議会と委員選出について団体ごとに周知の上、役員会等で決定するなど、可能な範囲で団体内で合意をしていただければと思います。